

令和4年度 学校評価アンケート結果の分析と改善策について

今年度の学校評価に多数のご協力をいただき感謝申し上げます。以下のとおり集計結果をご報告いたします。
 利府高をさらに良い学校へ、また活気溢れる学校にしていこうという生徒・保護者の皆様の思いや期待に添えるよう取り組んで参ります。
 今後ともご理解とご協力を賜りますようお願いいたします。

なお、集計結果（実現度調査）の詳細については、本校ホームページ[<https://rifu-h.myswan.ed.jp/evaluated>]をご覧ください。

実施日：令和4年11月24日（木）

回収日：令和4年12月1日（木）

対象：生徒（回答数739名 回答率95.7%）、保護者（回答数602名 回答率78.0%）、教職員（57名）

「よく出来ている」、「大体出来ている」、「あまり出来ていない」、「出来ていない」の4段階による評価

実現度調査の分析と改善策【全年次共通】

アイコン表記のルール : 80%以上 : 60~79% : 40~59% : 40%未満

: 10%以上 : 0~9% : 0%未満

実現度調査 質問項目	良好ととらえている割合 「よく出来ている」+「大体出来ている」	前年度比	分析	改善策
① 学ぶ意欲を引き出し、学力を身に付けられるような授業が行われている。	生徒 84%	➡ 4%	肯定的な回答の割合は、生徒84%、保護者80%、教職員86%であり、ここ数年上昇傾向にあり、高い水準を維持している。多くの教員がICTの活用や授業改善に取り組んでいる結果であると思われる。また、評価規程の改定により、苦手分野をそのままにせず再指導を行うという形で、苦手分野を抱える生徒への手立てを講じているのも要因として考えられる。	基礎学力を身に付ける段階である1年次では、従来通り学習上のつまづきを防ぐ観点から国語・数学・英語の3教科で習熟度別または少人数クラスでの授業を行っている。 授業以外でも、考査前学習会、課外授業、個人への添削指導、担任による進路面談の実施等、個に対応した指導を充実させていく。 次年度からはオンライン型課題配信をClassiからスタディサプリへと切り替え、豊富な学習コンテンツにより基礎学力を定着させるとともに、成績上位者への進学指導の補助的役割として活用していく。
	保護者 80%	➡ 0%		
	教職員 86%	➡ 2%		
② 挨拶やマナーなどの基本的な生活習慣の確立に関する指導が行われている。	生徒 96%	➡ 2%	基本的な生活習慣の確立に関する指導については、ほぼ徹底できている。特に挨拶については、学校生活のあらゆる場面を通じてその雰囲気づくりを行っており、その成果が浸透してきたと考えられる。一方で校外での登下校中のマナーに対する苦情などもあり、校内外を問わず基本的な姿勢を育むための継続的な啓発が必要である。	引き続き、自然に挨拶を交わせる雰囲気や学校全体を通じて作り上げる。その中で、基本的な生活習慣に関する1人1人の意識の高揚に繋げていきたい。また、登下校中のマナー確立に関してはHRや集会、部活動等を通じて継続的に啓発活動を行うと共に、地域のボランティア活動等の機会を増やし、外部や社会全体に目を向けさせることでより広い視野を育む指導を模索していきたい。
	保護者 92%	↓ -4%		
	教職員 100%	➡ 3%		
③ 進路目標の明確化に向けた適切な指導が行われている。	生徒 92%	➡ 5%	肯定的な回答の割合は、生徒92%及び保護者80%と共に昨年度と比べるとやや上昇している。教職員は91%で昨年度と同じである。年3回（3年次は1回）実施している進路希望調査をおして進路目標を明確にし、適切な進路指導を行っているという認識が概ね得られているものと思われる。しかしながら、生徒に比べると保護者からは否定的な回答の割合が高く、改善すべき点があることを示す結果にもなっている。	進路希望調査後のタイミングで二者面談を実施するなど、生徒たちの進路目標の変化に応じた適切な指導が大切である。「総合的な探究の時間」等を利用し、生徒たちの進路意識を高めながら、いち早く進路目標の明確化を図り、受験に向けた生徒たちの取り組みを早い段階からサポートできる体制づくりを進めていきたい。また、多様な進路目標をもつ生徒が存在する本校では、全教職員の協力のもとに様々な進路目標に対応していくことも重要である。
	保護者 80%	➡ 2%		
	教職員 91%	➡ 0%		
④ 教員やカウンセラーが必要な時に相談に応じてくれる体制ができています。	生徒 88%	➡ 7%	生徒の良好と捉える数値は7%上昇、保護者は昨年度と同様の81%であり、ほぼ肯定的に捉えている。相談件数は多いのだが、保護者における「できていない」という3%の評価に目を向けて対応していく必要がある。	ホームページに「保健室よりお知らせ」と「教育相談」というコーナーを設置し、定期的な保健だよりのアップや連絡等を行った。引き続き生徒、保護者に対して広報活動を実施していきたい。定期的な学校生活調査や日頃の生活の中で生徒の小さな変化を見逃さないよう声をかけを心がけたり、保護者との連絡の中でカウンセリングに繋がるような相談しやすい体制づくりに励んでいきたい。
	保護者 81%	➡ 0%		
	教職員 96%	↓ -4%		
⑤ 部活動は活発に行われている。	生徒 99%	➡ 0%	肯定的な回答の割合が総計で98.5%と非常に高い数値が得られている。対象差・認識差ともに少なく、前年度同様高い水準である。昨年度に引き続きコロナ禍の影響は少なからずあったものの、多くの大会が無事開催され、基本的な感染対策を講じながら、運動部・文化部ともに各種大会で数多くの好成績を残していることも影響したと考える。	継続して生徒が主体的かつ積極的に部活動に取り組める環境づくりに努める。部活動は本校の大きな特色であり、周囲からの期待度も高いため、生徒に自覚と責任を持たせていくことが必要である。同時に学習と部活動との両立や学習時間の確保について充実させていきたい。
	保護者 97%	➡ 0%		
	教職員 100%	➡ 0%		
⑥ 生徒会活動は活発に行われている。	生徒 81%	↓ -3%	前年比と変わらず、良好と捉えている結果が出ている。昨年度同様に、コロナ禍の影響を受けながらも、リモート会議参加や十符っ子ブラザーシップなどでもリーダーシップを発揮し、工夫を凝らしながらの活動が行えたことが高い評価につながっていると考える。	生徒会執行部は、生徒会行事や利府高祭の企画・運営、十符っ子ブラザーシップにおけるリーダー的役割等々に積極的に取り組んでいる。今後も学校活性化のために、生徒が主体的に課題を解決し、行動できるような組織作りを努めるとともに、本校の活動を外部に発信できる機会や地域の活動に積極的に参加する機会を増やし、地域の信頼を得られるよう努めていきたい。
	保護者 89%	➡ 0%		
	教職員 89%	➡ 1%		
⑦ 有意義な学校行事がある。	生徒 88%	↑ 15%	生徒の良好と捉えている割合が前年比で15%向上している。今年度は文化祭・体育大会ともにコロナ前の形態に近い形での開催が可能となったことが影響しているのではないかと考える。感染対策との両立を果たしながら、文化祭・体育大会ともに最大限の工夫を凝らしながらことごとくできた。	新たな行事を増やしたり、行事の日数を延ばすことは現状では難しい。よって、限られた時間と予算の中で、行事内容の充実を図ることが必要である。特に大きな行事である利府高祭と体育大会等において、実行委員を筆頭に意見を集約し、生徒が主体的に課題解決に取り組み、内容の充実を図る能力の育成に努めたい。
	保護者 81%	➡ 8%		
	教職員 96%	➡ 8%		
⑧ 地域や伝統などに根ざした特色ある学校づくりに取り組んでいる。	生徒 84%	➡ 2%	生徒・保護者の肯定的な回答が高い割合を占めていた。コロナ禍の中、小規模ではあるが様々な行事が開催され、生徒の喜び、励みにも繋がっていると感じた。さらには、3年ぶりに町内の小学生とのスポーツ交流が開催され、互いに大きな励みとなった。今後も充実した積極的な学校生活がおくれるよう、環境整備に努めていきたい。	本校は、開校当時より地域に根ざした教育活動を展開しており、その代表的なものとしては、「梨の花粉交配」や「スポーツ交流」、「ブラザーシップ」などがあつて、参加生徒にとって大変有意義なものとなっている。学校行事においても少しづつではあるが、コロナ禍前の活動に近づきつつある。通常は、部活動が大変盛んな学校であり、震災以降は特に、災害ボランティアに有志生徒や部活動単位で参加している。学校行事のみならず参加形態なども工夫することで、より地域に密着した活動や生徒にとって貴重な経験を積ませることができると考える。地域と共に成長できる学校であるために何事にも心を込めて取り組んでいきたい。
	保護者 80%	➡ 1%		
	教職員 82%	↑ 11%		
⑨ 災害・非常時の避難方法や連絡方法は伝えられている。	生徒 91%	➡ 4%	質問項目について肯定的な回答の割合は、保護者67%、生徒91%になっている。メール配信等によって災害時の対応について一定の理解が得られている。しかし「あまり出来ていない」「出来ていない」と評価する保護者は約32%、生徒は約8%になっている。災害時の登下校や避難について、生徒は良い方向へ進んでいるが、保護者にまだまだ周知されていない面があり見直ししていく必要がある。	学校での避難場所や避難経路については指導している。災害時における生徒の学校待機や保護者への引き渡しについては、更に周知徹底していく必要がある。防災時の登校、下校については、今後もメール配信等活用して周知出来るように努めていく。さらにマニュアル等で災害時の対応について、理解が得られるようにしていきたい。
	保護者 67%	↓ -1%		
	教職員 91%	↑ 17%		
⑩ 学校便りなどによって、学校の情報は適切に伝えられている。	生徒 94%	➡ 4%	肯定的意見が多くを占めたことが、「良好ととらえる割合」の数値から伺える。新型コロナウイルス感染症の影響で、多くの学校行事が縮小化し、保護者の学校参観も出来ない状況ではあるが、HPにによる各行事の情報発信を行ってきた。今後もさらに本校の魅力を発信することを目指し、情勢に応じた情報発信を継続していくと共に、よりニーズに対応した情報伝達に努めていきたい。	本校の広報機関紙である「燃えろ！利府高」を毎月発行し、本校の特色ある教育活動や生徒の功績をタイムリーに発信している。さらに本年度は、校門前に大会結果を掲示し情報発信に努めた。緊急を要する情報やより確実に連絡を伝える手段として、一斉メール配信を活用しその情報伝達を実施しているが、より迅速な情報発信に努めたい。本校ホームページについては、今後も学校生活や生徒の顕著な功績がスムーズに発信できるように努めると共に、卒業生の活躍なども情報発信し、互いの成長や励みとなるよう繋げていきたい。
	保護者 72%	➡ 2%		
	教職員 91%	➡ 7%		
⑪ 校舎やグラウンドなどの施設や設備は整備されている。	生徒 80%	↓ -1%	本校は昭和58年に開校し来年度で40周年を迎えるが、校内施設・設備の各所において経年による劣化が進行していることから、県教委と協議しながら順次、計画的に修理を行うこととしている。また、昨年度末に発生した地震により施設・設備に大きなダメージを被ったが、復旧工事は県教委発注のため修理完了まで時間を要することがある。快適な学習環境の整備という観点からもできるだけ早期の対応が必要であると認識している。	事務室では、毎年県教委に対し、経年劣化への対策として大規模改修等、必要な措置の早期実施や、地震で破損した箇所の早期の工事施工等を要望しているところである。今後も、生徒が安全で快適な学校生活を送ることができるよう、県教委への予算措置要望を継続するとともに、劣化・破損箇所等の早期改修に努めて行きたい。
	保護者 83%	↓ -3%		
	教職員 74%	➡ 7%		
⑫ 日頃からいじめの早期発見に取り組んでいる。	生徒 87%	➡ 6%	良好と捉えている割合が昨年度同様に高く、日頃からいじめは絶対に許さないという姿勢や各事案に対する丁寧な対応や取り組みが認識されてきている結果が伺える。HP上における「利府高校いじめ防止基本方針」の掲載や、PTA総会・予備登校時、三者面談等での保護者への周知、集会やHR等での生徒への啓発等、今後も本校のいじめの早期発見・解決に努めていきたい。	いじめの未然防止・早期発見・早期解決への取り組みをさらに教職員で共有し、全員が多面的に生徒の様子や状況を把握できるよう徹底する。さらに、生徒指導部では、H29年度から学校生活調査（いじめアンケート）の回数を年4回に増やし、こまめな調査によるいじめの未然防止・早期発見・早期解決への取り組みが定着してきているが、さらに内容等の検討を重ね、早期発見・追跡調査・情報共有を徹底していきたい。
	保護者 82%	➡ 2%		
	教職員 98%	➡ 0%		
⑬ 学校生活は充実している。	生徒 91%	➡ 6%	生徒の満足度は、最近の2年間の中では6%上昇し91%であった。生徒の意見も反映して、コロナ禍での工夫を凝らした学校行事の実施等が満足度に繋がったのではないかと考える。保護者、教員の中では87%、89%と昨年度より少し低い結果であった。	生徒は概ね良好と捉えているが、満足できていない生徒にも目を向けていきたい。保護者、教職員の「あまりできていない」と捉える数値（10.1%、10.5%）が生徒（5.5%）の倍なので、今後の状況の中でより生徒が充実できたと思えるよう、学校生活全体を工夫して支援していきたい。
	保護者 87%	↓ -3%		
	教職員 89%	↓ -6%		

実現度調査 質問項目	良好ととらえている割合 「よく出来ている」+「大体出来ている」	前年度比	分析	改善策
⑭ 家庭学習を含めた自主・自立的な学習態度を育成している。	生徒 86%	↑ 14%	生徒の肯定的な回答は、前年度に対して14%の大幅増となっている。これは新学習指導要領や新学習評価により、授業や課題の内容が観点別に明示されることで、これまでの知識重視型から、思考・判断・表現を伴う内容に変わってきたことが影響したものと考えられる。一方で保護者や教職員の肯定的な回答は前年度に対して微減しているが、授業や課題の取り組みが定期考査や模擬試験の結果として表れていないことによるものと思われる。特筆すべきは生徒と教職員との認識差は37%もあり、これは週末課題や各科目における課題に対する取り組みは良いものの、形骸化し学力の定着につながらないことを理由としている。	今年度から実施された新しい観点別評価によって、生徒の学習に対する取り組み方が変わってくる。知識だけでなく、思考・判断・表現を伴った学習内容により、「何のために学ぶのか」ということを考えながら学習に臨めるように環境を整えていかなければならない。その一方で、思考・判断・表現力は、確かな知識や基礎学力によって高められるものでもあり、基礎学力の定着は必要である。オンライン型課題配信スタディサプリの導入により、基礎学力を定着を図っていく。
	保護者 69%	↓ -2%		
	教職員 49%	↓ -1%		
⑮ 進学先の学業に対応できる学力を養成している。	生徒 91%	⇒ 5%	生徒の肯定的な回答は91%で、前年度に対して5%増となっている。保護者は2%増、教職員は±0%であった。それでも、生徒、保護者、教職員ともにこの5年間上昇を続け、5年間の最も高い数値となっている。生徒と保護者の認識差は16%、生徒と教職員の認識差は24%であり、保護者や教職員が生徒に対して「もっと頑張るのに」という期待との差であると思われる。学習や部活動の実績を生かした総合型選抜で受験する生徒が多いのは本校の特色でもあるが、一般入試でも対応できる学力を身に付けるには学習時間がかかりにも少なすぎる。「行ける大学」で満足しているのに関係しているのではないかと。	昨年度に引き続き、授業では生徒に主体的に学ぶ姿勢を身につけさせ、基礎学力の定着を図っていく。また、課題や小テスト、スタディサプリアなどをうまく組み合わせることで、より充実した進路指導体制の確立を目指していくことが必要である。また、生徒及び保護者に対して、本校の進路指導体制をより一層周知してもらえよう、積極的に情報を発信する機会を設けていきたい。
	保護者 75%	⇒ 2%		
	教職員 67%	⇒ 0%		
⑯ 3年間を見通した計画的・継続的な進路指導体制が確立されている。	生徒 91%	⇒ 6%	肯定的な回答の割合は、生徒91%及び保護者78%と共に昨年度と比べるとやや上昇している。教職員も84%でやや上昇している。昨年度から「総合的な探究の時間」を中心に3年間を見通した指導計画を見直ししており、生徒及び保護者に対して、一定程度ではあるが本校の進路指導体制が周知されているものと思われる。	次年度に向けて今年度の内容を継続しつつも、問題点等を検証し、改善策を検討することで、より充実した進路指導体制の確立を目指していくことが必要である。また、生徒及び保護者に対して、本校の進路指導体制をより一層周知してもらえよう、積極的に情報を発信する機会を設けていきたい。
	保護者 78%	⇒ 1%		
	教職員 84%	⇒ 1%		
⑰ 「総合的な探究の時間」における進路指導が充実している。	生徒 90%	⇒ 3%	肯定的な回答の割合は、生徒が90%で昨年度と比べるとやや上昇しているが、保護者が75%と昨年度と比べるとやや減少している。教職員は72%で昨年度と比べると大幅に減少している。昨年度から「総合的な探究の時間」を大幅に見直ししており、今年度は昨年度の問題点などを踏まえて「総合的な探究の時間」の指導計画を作成した。しかしながら、教職員が求める指導内容には至っていないものと思われる。	近年、総合型選抜等において、高校生活で実施した「探究活動」の内容を問われることが多く、昨年度から1・2年次の「総合的な探究の時間」の計画の中に「探究活動」を取り入れている。次年度以降も継続していくことで、今年度の生徒たちの活動状況等を改めて検証し、生徒たちにとってより充実したものになるよう、生徒や教職員の意見を集約しながら指導内容の創意工夫に努めていきたい。
	保護者 75%	↓ -2%		
	教職員 72%	↓ -14%		
⑱ 個に応じた適切な進路指導が行われている。	生徒 90%	⇒ 8%	肯定的な回答の割合は、生徒90%及び保護者73%と共に昨年度と比べると上昇している。教職員は84%でやや減少している。生徒や教職員に比べて保護者の肯定的な回答が低いことから、家庭との連携を図りながら3年次の受験指導を中心に生徒一人ひとりに応じた適切な進路指導を実施することが必要であると思われる。	本校は、生徒たちの進路選択が多様多様であることから、個に応じた適切な進路指導がより重要である。1・2年次の生徒の個別面談や、3年次の生徒を対象とした総合型選抜及び学校推薦型選抜に向けた個別指導等を継続しつつも、教職員全体で生徒一人ひとりに対応するといった意識を高めていく必要がある。
	保護者 73%	⇒ 1%		
	教職員 84%	↓ -4%		
⑲ 全校清掃、校内外の美化活動を実践している。	生徒 88%	⇒ 7%	生徒、保護者の良好と捉える数値は平均して89%と昨年度と同様であった。教職員においては、82%と引き続き昨年度に近い数値であった。コロナ対策として物品や環境はかなり整えており、清潔な環境作りの取り組みが数値に表れたと考える。	コロナ対策として清掃用具等の必要物品を整えるなどハード面は充実してきている。月1回の大掃除と通常清掃をより丁寧に実施し、清潔で過ごしやすい環境作りに努めたい。
	保護者 90%	⇒ 1%		
	教職員 82%	↓ -1%		
⑳ 「人の集まる図書館づくり」に努め、学習センターとしての機能が充実している。	生徒 77%	⇒ 6%	良好と捉えている割合が昨年度と比べ、生徒で6%上がった。新型コロナウイルスの影響を考慮すれば概ね良好と考える。その一方で保護者で3%下がっている。保護者に対して、図書館の情報発信するなどしていくことが課題である。図書館に設置されているパソコン、iPadのIT機器が整い、調べ学習や進路にむけて生徒たちにとって利便性が上がったと考える。	今後とも生徒・教職員の要望を聞きながら蔵書の充実や読書に努める図書館づくりを推進する。また、図書館だよりの発行等を通して、利用促進に向けた情報発信に継続して取り組んでいく。新年度から、新学習指導要領改訂の初年度にあたり、新設科目に対応した資料収集を計画的におこなってきたい。
	保護者 72%	↓ -3%		
	教職員 77%	↓ -7%		
㉑ 衛生管理を徹底し、生徒の健康の保持増進に努めている。	生徒 86%	⇒ 3%	生徒の数値は昨年度同様であるが、保護者、教職員の良好と捉える数値が少し減少している。感染対策を講じながら衛生管理を行っているが、学習環境の整備は多岐にわたる時間がかかるため、見えづらい点もあるのではないかと考える。	コロナ対策物品は、前年度に加えて日常的に使用する便利な物を揃えているので、学習環境を整備するために有効活用していく。生徒の委員会活動では、扇風機、ファン、加湿器の清掃・設置をしたり、放送等での換気実施の呼びかけ等も自主的に活動できているので、今後も継続してきたい。
	保護者 79%	↓ -6%		
	教職員 89%	↓ -8%		
㉒ PTAや同窓会活動の充実に努めている。	生徒	—	肯定的な回答の割合は、保護者82%、教職員89%になっている。PTA活動や同窓会活動について行事案内や広報活動を行っていることが、ある程度評価されている。一方で「あまり出来ない」「出来ない」と評価する保護者が約17%になっている。PTA行事への関心が低いことなどが原因ではないかと分析する。	PTA行事への参加案内や活動報告を継続していく。今年度もコロナの影響によりPTA行事が環境整備活動のみとなったが、前年に比べ参加者が若干増加した。今後も積極的に広報活動をおこない、参加者を増やしていく。
	保護者 82%	⇒ 2%		
	教職員 89%	↓ -1%		

実現度調査の分析と改善策【1年次】

実現度調査 質問項目	良好ととらえている割合 「よく出来ている」+「大体出来ている」	前年度比	分析	改善策
① 体験学習（大学見聞会）をとおして、学問研究の場に直接触れることにより、大学で学ぶ意義について学習し、進路に対する視野を広げる指導が行われている。	生徒 87%	⇒ 3%	大学見聞会などを通して進路に関する基本的な情報を得ることで、87%の生徒たちは、大学で学ぶ意義や進路に対する視野を広げられたと捉えることができる。しかし、進路の未定者が5%で、実際にはさらに進路について迷っている生徒も多く、進路目標を1つに絞って達成に向けての具体的な姿勢や行動が今ひとつ見えないことから、33%の保護者にとっては肯定的に捉えられない部分があると考えられる。	来年度実施予定の一日総合大学を中心に、総合的な探究の時間での進路研究などを通して、自己の適性を知り、進路目標をより明確にしていくための機会を増やしていきたい。また、進路達成に向けて必要なことについては、生徒だけでなく、保護者に向けても、できるだけ情報を提供していくことを目指したい。
	保護者 67%	↓ -10%		
② 継続的に週末課題を実施することにより、家庭学習の習慣化が図られている。	生徒 87%	⇒ 7%	国数英を中心に継続的に実施している週末課題に、ほとんどの生徒は習慣的に取り組んでいることから、87%という高い自己評価率につながっているものと考えられる。しかし、保護者から見れば、それらの取り組みが、成績や模試の結果につながっているという明確な実感が得られていないことから、76%という生徒より11%も低い評価になっているものと考えられる。	週末課題などを継続して実施することで、生徒の家庭学習習慣の確立を目指したい。今年度は毎週月曜日と長期休業期間中の課外講習を実施したが、参加者が非常に少なかった。継続して学習に取り組むことはもちろん、成績や模試の結果から自己分析を行い、弱点の克服や得意分野を伸ばすことの重要性について認識を高め、家庭学習や課外講習への積極的な取り組みを促したい。
	保護者 76%	⇒ 3%		

実現度調査の分析と改善策【2年次】

実現度調査 質問項目	良好ととらえている割合 「よく出来ている」+「大体出来ている」	前年度比	分析	改善策
① 一日総合大学をとおして、実際の大学の講義を体験し、進路選択についての意識を高める指導が行われている。	生徒 93%	⇒ 4%	生徒の93%、保護者の75%が肯定的な意見で、双方とも昨年度を上回っている。今年はオンラインだけではなく、実際に大学から講師が出向してくださった講座が多かったことがこの結果につながったと思われる。やはり目の前で話していただいた方が、生徒の意識を高めるのには有効である。	一日総合大学で得られた情報をもとにして、生徒自らが情報を収集したり、オープンキャンパスに出向くなど、主体的な進路選択につながる活動が行われるような指導体制、バックアップ体制を工夫したい。総合的な探究の時間においても進路意識を高めるとりくみを継続していきたい。
	保護者 75%	⇒ 7%		
② 自学自習の習慣を定着させるため、週末課題等の実施が継続的に行われている。	生徒 94%	⇒ 1%	生徒は94%、保護者は78%が肯定的な意見であり、昨年度とほぼ同様の結果となった。週末課題については、殆どの生徒において習慣化されているが、一部取り組みが不十分な生徒もいることから、生徒に比べて保護者の評価が低い結果につながっていると考えられる。	週末課題にしっかりと取り組むことにより学習習慣を身につけることが希望進路の実現につながることを生徒に理解させ、モチベーションを高めていきたい。また新たに導入するスタディサプリアを有効に活用できるよう、年次担当、教科担当と協力して進めていきたい。
	保護者 78%	⇒ 2%		

実現度調査の分析と改善策【3年次】

実現度調査 質問項目	良好ととらえている割合 「よく出来ている」+「大体出来ている」	前年度比	分析	改善策
① 放課後や夏季休業中の課外講習を計画的に実施することにより、恒常的な学習習慣呼びかけを行っている。	生徒 93%	⇒ 7%	生徒は昨年度の3年生と比べると7%肯定的な意見が増え、保護者は1%減っているが、生徒の93%、保護者の77%が肯定的な意見であり、全体的には昨年度より肯定的な意見が増えた。2年次まではオンラインを中心とした講習を行ってきたが、3年次になってからは対面での指導を継続的に実施し、進路目標の実現に向けた取り組みを啓発してきたことが、肯定的な回答の増加につながっていると思われる。	過去には夏に学習合宿を実施したり、1・2年次の時期から対面で課外講習を長期休業中生徒が登校して実施するなど、より可視的な指導を行ってきたが、新型コロナウイルス対策のためにオンラインを中心とした学習を計画実施してきており、今以上に保護者にも見える形で進路指導を行い、家庭の協力を得る努力が必要だったと思われる。また、個別の進路対策が3年次では細分化されるため、添削指導等の個別指導の拡充もより一層必要と考えられる。
	保護者 77%	↓ -1%		
② 希望する進路に応じたガイダンスや学習会を実施し、より明確な目標と学習計画が立てられるような指導が行われている。	生徒 92%	⇒ 8%	生徒は昨年度の3年生と比べると8%肯定的な意見が増え、保護者は上の項目同様1%減っているが、生徒の92%、保護者の78%が肯定的な意見であり、特に生徒の肯定的な意見は昨年度は横ばいだったが今年度は増加した。ここ数年、「総合的な探究の時間」を活用して進路希望別に「進路研究」を実施しており、肯定的な回答につながっていると思われる。	「総合的な探究の時間」を活用しながら、より個別の進路希望に応じた指導を実施してきた。昨年度から業者などプロの意見も取り入れながら計画の見直しを行い、今年度は、担任の指導の下、生徒は個々の課題に計画的に取り組む成果を実感したため肯定的な意見が増えたものと思われる。今後は、全体的に生徒の取り組み時期を早めることを目標とし、ガイダンスのタイミングを適切な時期に設定してさらに早めの対策を生徒がとれるよう促すことが効果的と思われる。
	保護者 78%	↓ -1%		